

ゲキ×シネ 「メタルマクベス」

2008(平成20)年5月15日鑑賞(試写会・梅田ブルク7)

★★★★★



監督＝前嶋輝／企画製作＝劇団☆新感線、ヴィレッチ／映像製作＝イーオシバイ／原作＝W・シェイクスピア『マクベス』（松岡和子翻訳版）／脚色＝宮藤官九郎／演出＝いのうえひでのり／出演＝内野聖陽／松たか子／上條恒彦／森山未來／北村有起哉／橋本じゅん／河野まさと／高田聖子／粟根まこと（イーオシバイ、ティ・ジョイ配給／2007年日本映画／201分）

……「ゲキ×シネ」って何……？ そんなことを言っているあなたは時代遅れ！ わずか2500円でかぶりつきの舞台以上の臨場感を味わえるのがこれ。『メタルマクベス』って何……？ そりゃ、このゲキ×シネを観なきゃわかりっこない！ ヘビメタバンドがシャウトする歌詞どおりに、国王暗殺のストーリーが進んでいくのは一体なぜ……？ そして、シリアス＋ヘビメタ＋ギャグの三位一体の魅力とは……？ 奇想天外な発想と、芸達者な役者たちの熱演をタップリと味わった、あなたの満足度はきっと100%！

第4章

ザッツ・エンタテインメント

舞台中継とは？

テレビでは昔から『吉本新喜劇』などのさまざまな舞台や、『宝塚大劇場』の舞台中継などがあった。カメラワークの3要素とは、①被写体に対する位置（ポジション）、②角度（アングル）、③被写体のサイズ（フレーム）だが、舞台中継の撮影は限られた室内空間での作業となるため、クレーンなどを使った大がかりな撮影はできず、またカメラの位置や台数も限られることになる。したがって、アップショットやクローズアップの限界があり、ロングショットが基本となるため、舞台上の役者の表情がとらえにくいという弱点があった。したがって、テレビで観る舞台中継は所詮その程度のもの……。

シネマ歌舞伎とは？

ところが、近時、映画でもなく歌舞伎でもない「新しいメディア」として「シネマ

歌舞伎」が登場！ これは歌舞伎の舞台公演をHD高性能カメラで撮影しスクリーンに上映するというもので、松竹が開発したもの。その第1弾は、2003年8月に歌舞伎座で上演された野田秀樹作・演出の新作歌舞伎『野田版 鼠小僧』を撮影し、2005年1月東京・東銀座の東劇で公開したもの。その最大の特徴は「美」と「臨場感」だが、その他にも価格の安さとアクセスの手軽さという特徴もある。

シネマ歌舞伎はその後、第2弾『野田版 ^{とぎたつ} 研辰の討たれ』、第3弾『^{ささむすめ} 鶯娘』、第4弾『京鹿子娘二人道成寺』と、製作・上映されているが、その人気と定着ぶりは……？



ゲキ×シネとは？

今回私がはじめて知ったのは、演劇の映像を映画館で観るという、新感覚のエンタテインメントとしての《ゲキ×シネ》。つまり、演劇と映画の新たな融合だ。その特徴は、シネマ歌舞伎と同じ「美」と「臨場感」。人気の演劇を最新のデジタルシネマ技術で映像化しているうえ、音響もバッチリだからその美しさにうっとり。また、10台以上のカメラを駆使してベストポジションからのアングルで映された役者たちの表情をリアルに鑑賞することができるから、ゲキ×シネの臨場感はすばらしい。例えば、アップでは役者の肌に浮ぶ汗のしずくまで、またキスシーンでは、松たか子の愛くるしくかつ艶かしい(?)唇を観ることが可能……。いくらS席でも、ここまでの臨場感を味わうことは難しいのでは……？

また、普通演劇はS席で1万円くらいするから、それを一般当日2500円（前売2000円）で鑑賞できるのは超お値打ち。



《ゲキ×シネ ツアー2008》開催！

私が今回はじめてゲキ×シネ『メタルマクベス』の試写会へ行ったのは、2008年6月7日から《ゲキ×シネ ツアー2008》と題して、次の5作品を全国で連続上映することになったため。

- ①『髑髏城の七人～アカドクロ』
- ②『髑髏城の七人～アオドクロ』
- ③『SHIROH』
- ④『朧の森に棲む鬼』
- ⑤『メタルマクベス』

『メタルマクベス』を除く他4つは、作：中島かずき、演出：いのうえひでのりの作品で、私もそのタイトルはチラシなどで知っていた。しかし残念ながら、演劇を観に行くのはかなり前からチケットの予約をしなければならないため、行くチャンスがなかったもの。

それに対して、脚色：宮藤官九郎、演出：いのうえひでのりの『メタルマクベス』の存在を、私は全然知らなかった。そこで、事前にネットを調べたことと、著作：劇団☆新感線、ヴィレヅとされていたことによって、「こんな演劇か」とイメージすることができた。その上映時間は何と201分。途中休憩はあるが、こりゃかなり大規模かつ風変わりなお芝居。

そう予想して行っただが、そんな予想はピタリと的中。しかしてミュージカル系演劇大好き人間の私は、上映開始早々、どっぴりとその魅力にハマることに……。

時代は？ 舞台は？ 趣向は？

このゲキ×シネ『メタルマクベス』の時代は西暦2206年。舞台はレスポール王（上條恒彦）が君臨する ESP 王国。今そこに戦友のエクスプローラー（橋本じゅん）と共に凱旋帰国しようとしているのは、無敵の將軍ランダムスター（内野聖陽）だ。

ランダムスターは国王への忠誠心厚い將軍だが、途中出会った3人の魔女たちは不気味な予言を。それは、ランダムスターがマホガニーの領主となり、その後国王になるというもの。そして、魔女たちがランダムスターに手渡したのは、1980年代に活躍したヘビーメタルバンド「メタルマクベス」のCDだった。メタルマクベスは、ボーカルのマクベス内野（内野聖陽）をリーダーとし、ギターのバンクォー橋本（橋本じゅん）、ベースのマクダフ北村（北村有起哉）、ドラムスのナンプラー（栗根まこと）の4人のグループ。ところが、マクベス内野はランダムスターとバンクォー橋本はエクスプローラーとそっくりの男。こりゃ一体ナニ……？

そんな奇想天外な趣向で始まる『メタルマクベス』は、以降どんな物語が……？
きっとランダムスターは国王を殺し、その座を奪うのだろうが、基本ストーリーはシェイクスピアの原作を忠実に……？

松たか子がいい味を……

ランダムスターを演ずる内野聖陽やレスポール王を演ずる上條恒彦の芸達者ぶりは

よく知っているから、すばらしい芸を見せられても当然と思ってしまいますが、はじめて観た松たか子の芸達者ぶりにビックリ。第1幕前半のハイライトは、彼女が演ずるランダムスター夫人がマホガニー城の屋上で国王の殺害を夫にけしかけるシーン。躊躇するランダムスターに対して、「チャンスは今しかない」「今なら王殺しの罪をレスポール Jr（森山未来）になすり付けることができる」とけしかける松たか子。彼女はレスポール Jr の短剣をランダムスターに差し出し、決断を迫ったが……。

こんな迫真の演技からヘビメタのシャウトまで、さらに第2幕後半では精神に異常をきたしてしまった姿まで、多種多様な姿を熱演！　こんないい味を出した松たか子のお芝居をかぶりつきで観ることができるのだから、ゲキ×シネって最高！

シリアス+ヘビメタ+ギャグの三位一体がグッド！

ヘビメタでシャウトするのはいいが、少し困るのは往々にして何を叫んでいるのか聴き取れないこと。その点、この演劇では歌詞がバックに大きく表示されるから安心。もちろん、ヘビメタが大嫌いな人にはしんどいだろうが、私は全然大丈夫。

それにしても、1980年代に「メタルマクベス」が歌った数々の名曲が西暦2206年のランダムスターの行動を予言しているという発想はユニークで、さすが宮藤官九郎の脚色！　私は劇団☆新感線の演劇を『花の紅天狗』（03年）（『シネマルーム3』378頁参照）ではじめて観て大いに感心したが、劇団☆新感線特有のギャグ（？）が、この『メタルマクベス』の中には随所に散りばめられている。再三くり返されるのが、伝令役の吉田に対する「吉野屋クン！」というくだらないギャグ。

本来高尚な演劇にギャグを多用するのは避けたいものだが、シリアスな演技+ヘビメタの興奮+適度なギャグの三位一体が、『メタルマクベス』の真骨頂！

2人の若者は？

謀反を企んだマホガニー領主の処刑を自分にやらせてくれと国王に対して願い出るレスポール Jr の姿を見ていると、いかにも功を焦っている感じ……？　しかし、親バカはどこでも同じで、そんな息子を頼もしく思ったレスポール王は「レスポール Jr を王位継承者と定める！」と宣言したから大変。

レスポール Jr は、アホか利口かわかりにくいのが特徴……？　父親殺害の後、親殺しの罪をきせられた彼は、忠臣グレコ（北村有起哉）の協力によって城を脱出し、フ

エルナンデス国のパール国王（栗根まこと）の下で匿われるが、そこで父親の復讐を誓い、そのチャンスをじっと待っていたのは立派。しかし、ヘビメタバンドをバックに演歌歌手としてデビューし、『紅白歌合戦』に出ると宣言している姿を見ると、「やはりレスポール Jr はバカか！」と思ってしまう。もっとも、この演歌の曲は思った以上の出来ばえだし、そこで見せるタップシーンも見事なもの。そんな二面性を持つレスポール Jr を、森山未來が見事に熱演！

もう1人のバカ者、いや若者は、エクスプローラーの息子マーシャル（河野まさと）。こちらはもともとバカ息子だったようだが、彼も親友だったランダムスターによって父親が暗殺されると、当然ながらレスポール Jr と共にランダムスター打倒に燃えることに……。第1幕では比較のカゲの薄かったこの2人の若者が、第2幕では大活躍するから、お立ち会い！

忠臣グレコの存在感は……？

序盤、中盤はエクスプローラーの陰に隠れてほどほどの出番ながら、後半から終盤にかけてグッと存在感を増すのが忠臣グレコ。彼はレスポール Jr の教育係だったから、「それでもボクはやってない！」と父親殺しを否認するレスポール Jr の目を見て、彼はシロだと断定し、密かにレスポール Jr を逃したのは立派な措置というべき。

しかし、そんなグレコがレスポール Jr やパール王と通じていると知ったランダムスターは、グレコの妻子殺害の命令を下し、暗殺団を派遣したから大変。レスポール Jr から早く妻子を連れ出すように言われ、急ぎ ESP 王国に戻ろうとしたグレコだが、暗殺団の到着とどちらが先……？

一歩遅れたことによって愛する妻子を失ったグレコが、ランダムスターに対して復讐を誓うシーンは圧巻！ これを観ていると、前半に目立ったエクスプローラー役より、グレコ役の方がおいしいのでは……？

やはり人間って弱いもの……？

日本の総理総裁の座をめぐる権力闘争も、昔は「角福戦争」などと言われるほど凄まじいものだったが、近時の自民党内のそれはおとなしいもの……？ また、アメリカ大統領予備選における、オバマ vs. ヒラリーの争いを見ていると、民主主義のルールにもとづく競争は大変なことがよくわかる。さらに、ロシアのプーチン首相とメド

ページェフ大統領による二頭体制の発足を見ると、内部でうごめく生々しい権力闘争の姿を容易に想像することができる。

したがって、2206年のESP王国においても、3人の魔女たちの予言を聞いたランダムスターが、「メタルマクベス」のCDにハマり、国王の地位に固執し始めたのは当然。レスポール王の暗殺を直接けしかけたのはランダムスター夫人だが、それを自らの手で実行したのはランダムスター。したがって、ランダムスターの手にはベトリとレスポール王の血が……。もちろん、それは水に流せば消えてしまうのだが、ランダムスターの頭の中に残った国王暗殺のイメージは永久に消えないもの。その後ランダムスターは、親友エクスプローラーの暗殺、そしてグレコの妻子の暗殺等を指示していったから、今や彼の頭の中は、血まみれになった自分の姿がありありと……。

そんな風に日に日に精神のバランスを失っていくランダムスターの姿を見て、ランダムスター夫人はきっと「だから男ってダメね。ホントに精神的に弱い動物ね」と思っていたはず。しかし、あくまで王冠はランダムスターの頭上にあるのだから、ランダムスター夫人は彼を盛り立てていかなければならない立場。しかし、パーティーの席で、幻覚・幻聴によって無様な姿を露呈するなど肝心の「みこし」がコケそうになると、それを担ぐ人間の気苦労はさらに大変！

そんな中、次第にランダムスター夫人も精神を病んできたようだから困ったもの。今の日本では、夫婦のどちらかが精神に異常をきたせば、他方が「成年後見人」となって、何とか夫婦の体面を保つことができるが、2人とも精神異常になるとそりゃやばい。そんなESP王国は今や風前の灯……？

ラストにはどんなクライマックスが……？

イラク戦争開始の理由は、イラクのフセイン政権が大量破壊兵器を放棄しなかったためだが、その是非は……。今やESP王国は風前の灯だが、「あの日」以来眠れなくなってしまったランダムスターは、毎日地下室にこもって何やらやっているらしい。他方、ランダムスター夫人は、医師も手の施しようがないほどの精神異常ぶり……。そんな中、グレコたちが伝え聞くのは、ランダムスターは城の地下に大量破壊兵器を保存しているらしいということ。さて、その真相は……？

そんな背景事情を十分理解したうえで、城に向かったパール王やグレコとランダムスターとの対決やレスポールJrとマーシャルという2人の若者とランダムスターとの

対決を楽しもう。そして、そんな中で訪れるラストのクライマックスシーンはどんなものの……？ 映画はCG撮影を駆使すれば「何でもあり」だが、舞台はさすがに限定された室内空間での勝負！ しかし、ゲキ×シネ『メタルマクベス』に見る壮大なクライマックスシーンは目を見張るものだ。

上映時間は201分と3時間をはるかに超えるが、あなたは途中飽きることなく、このクライマックスシーンまで引っ張られるはず。最後に訪れるそんなクライマックスシーンをじっくりと楽しみ、その後は熱演を続けてきた役者たちに対して限りない拍手を！

2008(平成20)年5月17日記

興奮！感動！こんなマクベスってあり！



ゲキ×シネ「メタルマクベス」

梅田ブルク7で公開中



ド。内野聖陽が松たか子
がいい！
時にシリアスに、時に
過激にシャウトするリア
ルな表情がアップで目前
に。これぞ特等席！脚
本が演出がいい！そり
や宮藤官九郎、劇団☆新
感線のいのうえひでのり
が頭をヒネったのだから、
奇想天外な展開は当
たり前。

サミット後の政局は霧
の中！内閣総辞職？
それとも解散？ポスト

「ゲキ×シネ」って何
？それは演劇の映像を
映画館で見る新感覚のエ
ンタメ。いわば演劇と映
画の新たな融合だ。それ
って舞台中継？そんな
ことを言うあなたは完全
な時代遅れ！その特徴
は「シネマ歌舞伎」と同
じく、美と臨場感。二千
五百円で、流れる汗から
松たか子の愛くるしい唇

のアップまでかぶりつき
だから大感激！
『マクベス』ってあの
シェイクスピアの？そ
りゃそうだ。すると、魔
女の予言は？臣下マク
ベスによる主殺しの決断
は？マクベス夫人の夢
遊病は？二人のなれの
果ては？そんな四大悲
劇の一つが、ヘビーメタ
ルバンドのマクベスを主
人公とし、時空を超えた
西暦二〇六年の世界で
大展開！
音響がいい！何せヘ
ビメタのライブだから。
カメラワークがアップが
いい！これこそゲキ×
シネの真骨頂。セリフが
いい！「女の股から生
まれた者は殺されない」
の名セリフをはじめ、際
どいセリフのオンパレー

福田をめぐると上野潮派V
S財政再建派の対決は？
そして政界再編成は？
そんな目前に迫る権力
闘争をマクベスから学
び、「これぞホンモノ！」
の迫力ある劇とセリフそ
して大音響に興奮・感動
し、シリアス+ヘビメタ
+笑い三位一体の魅力を
タップリと楽しもう。

松たか子の愛くるしい唇

劇の一つが、ヘビーメタ
ルバンドのマクベスを主

の名セリフをはじめ、際
どいセリフのオンパレー

第4章

ザッツ・エンタテインメント

大阪日日新聞 2008(平成20)年6月14日